

平成26年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT26067

【プログラム名】食品表示～食品ラベルは情報満載！知ってなるほどそうだったんだ！～



開催日：平成26年8月1日(金)  
平成26年10月26日(日)  
実施機関：東京海洋大学  
(実施場所) (品川キャンパス)  
実施代表者：小川美香子  
(所属・職名) (先端科学技術研究センター・助教)  
受講生：中学生15名  
高校生12名  
関連URL：<http://www.kaiyodai.ac.jp/topics>

【実施内容】

【プログラムに留意・工夫した点】

(8月1日)中学生を対象に、海外のレストランにおけるメニューへのアレルギー表示制度、我が国における加工食品の表示全般にわたる講義の後、食品サンプルを用いた表示調査を行い、ワークショップ形式で発見できたこと、わからない点を列挙・整理させた。それらの結果について中学生による発表を行わせるとともに、講師からコメントし、食品表示の内容への理解を深めた。

(10月26日)高校生を対象に、海外の外食チェーンにおけるアレルギー表示、栄養成分表示、原材料法事の制度、我が国における加工食品のうち、アレルギー表示、原料原産地表示を中心とした講義の後、食品サンプルを用いた表示調査を行い、ワークショップ形式で、読み取れた情報、表示に対する改善要望をまとめさせた。それらの結果について高校生による発表を行わせるとともに、講師からコメントし、食品表示の目的、意義、内容に対する理解を深めた。

両プログラムに共通して、生徒自らが考え、お互いに気づいた点を教え合うというグループ学習の手法を取り入れたことにより、非常に活発な意見交換、発表が行われた。

【当日のスケジュール】

(8月1日、10月26日共通:説明資料は異なる。)

12:30 受付開始  
13:00 開講式  
13:10 講義Ⅰ「外食表示の日米比較」  
13:50 休憩  
14:00 講義Ⅱ「食品表示から見えるもの(加工食品)」  
14:40 休憩  
14:45 表示調査(グループ学習、発表資料作成)  
15:45 休憩  
15:55 発表  
16:55 休憩  
17:05 修了式(未来博士号授与)  
17:30 終了

【実施の様子】

(講義:中学生)



講師による講義を受講する中学生参加者

(講義:高校生)



講師による講義を受講する高校生参加者

(グループ学習:中学生)



食品表示の調査  
を行う中学生参  
加者

(発表資料作成:中学生)



ポストイット等  
を用いて発表  
資料を作成す  
る中学生

(発表:中学生)



発表を聞く参加  
者。発表者の周  
りに集まって意  
見交換を行った。

(未来博士号授与:中学生)



博士号授与の様  
子。夏休みの課  
題研究テーマを  
求めてきた参加  
者も見られた。

(グループ学習:高校生)



食品表示に関す  
る高校生質問に  
答える講師

(発表資料作成:高校生)



完成した発表資  
料。表示を見て  
わかったこと、わ  
からないこと、で  
グループ分けさ  
れている。

(発表:高校生)



高校生による発  
表。父兄・学生  
も参加して意見  
交換を行った。

(未来博士号授与:高校生)



博士号授与の様  
子。高校生は明  
確な目的意識を  
持った参加者が  
多かった。

【事務局との協力体制】

経費の支出面で全面的な協力を得たほか、会場の確保、学校掲示板、HPでの広報、案内板の貸し出し等、実施面でも協力を得た。また、本事業の経験を有する事務局が学術振興会との窓口を務めたことにより事務処理が円滑に進んだ。

【広報活動】

地域コミュニティペーパー「ココカラ」の6月号、8月号で港区、目黒区、渋谷区、品川区を中心に広報を行った。そのほか、本学掲示板、HPでの広報を行った。また、海洋大が連携している水産系高校や都内の食品学科のある高校等に連絡したほか、大学院生の出身高校へPRを依頼した。

【安全配慮】

参加者にはリクレーション保険をかけた。また、調査試料の食品類については参加者に持ち帰ってもらったが、総菜など日持ちのしない消費期限表示の食品については持ち帰らず本学にて処分した。

【今後の発展性、課題】

広報活動には積極的に取り組んだつもりであったが、高校生の集まりが目標の半分となった。秋のオープンキャンパスに合わせて開催したが、高校生達は他の学科紹介も見たいため、当日参加も少なかった。一方、中学生の取り組みは非常に積極的であった。これは、夏休みの課題のための材料集めを兼ねていたものとみられ、同行した父兄らも熱心に講義を聞いていた。次年度は、テーマを変え小中学生を対象に夏休み中に実施してみたい。

【実施分担者】

濱田奈保子  
湯川剛一郎  
小林征洋

東京海洋大学大学院食品流通安全管理専攻 教授  
東京海洋大学先端科学技術研究センター 教授  
東京海洋大学大学院食品流通安全管理専攻 助教

【実施協力者】 3 名

【事務担当者】

国際・研究協力課 日俣詠里子